

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第1区分

【発行日】令和5年5月24日(2023.5.24)

【国際公開番号】WO2022/260145

【出願番号】特願2022-568664(P2022-568664)

【国際特許分類】

C 0 3 C 1 7 / 3 2 (2 0 0 6 . 0 1)

C 0 9 D 1 8 3 / 0 4 (2 0 0 6 . 0 1)

C 0 9 D 1 8 3 / 1 2 (2 0 0 6 . 0 1)

C 0 9 D 7 / 6 5 (2 0 1 8 . 0 1)

C 0 9 D 7 / 6 3 (2 0 1 8 . 0 1)

C 0 9 D 1 2 9 / 1 4 (2 0 0 6 . 0 1)

【F I】

C 0 3 C 1 7 / 3 2 A

C 0 9 D 1 8 3 / 0 4

C 0 9 D 1 8 3 / 1 2

C 0 9 D 7 / 6 5

C 0 9 D 7 / 6 3

C 0 9 D 1 2 9 / 1 4

10

20

【手続補正書】

【提出日】令和4年11月10日(2022.11.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ガラス基材と、前記ガラス基材の表面上の防曇膜と、を備え、

前記防曇膜は、シランカップリング剤及びシランカップリング剤に由来する架橋構造からなる群より選択される少なくとも1つと、吸水性ポリマーと、ポリエーテル変性シロキサンと、炭素数2～8のジオールと、を含み、

25℃の水に24時間浸漬させて前記水から取り出し、前記防曇膜から鉛直方向下方に60mm離間させて配置した90℃～100℃の水から発生する水蒸気に前記防曇膜を30秒間曝し、前記防曇膜から前記方向下方に110mm離れて配置したQRコードの情報を前記防曇膜が形成された側とは反対側からカメラを使用して読み取ることができるかを判定する試験において、40mm四方のサイズを有するQRコードの情報を読み取ることができる、

30

40

防曇膜付きガラス物品。

ここで、前記QRコードは、日本産業規格(JIS)X 0510:2018に従って、21×21モジュールのシンボルサイズ及びレベルHの誤り訂正の仕様により、前記情報として文字列「Rank:B」を符号化した二次元コードである。

【請求項2】

ガラス基材と、前記ガラス基材の表面上の防曇膜と、を備え、

前記防曇膜は、シランカップリング剤及びシランカップリング剤に由来する架橋構造からなる群より選択される少なくとも1つと、吸水性ポリマーと、ポリエーテル変性シロキサンと、炭素数2～8のジオールと、を含み、

25℃の水に24時間浸漬させて前記水から取り出し、前記防曇膜から鉛直方向下方に

50

60 mm 離間させて配置した 90℃～100℃の水から発生する水蒸気に前記防曇膜を 30 秒間曝す試験を実施したときに、前記水蒸気に曝された前記防曇膜の前記表面に透明な連続膜が形成される、

防曇膜付きガラス物品。

【請求項 3】

ガラス基材と、前記ガラス基材の表面上の防曇膜と、を備え、

前記防曇膜は、シランカップリング剤及びシランカップリング剤に由来する架橋構造からなる群より選択される少なくとも 1 つと、吸水性ポリマーと、ポリエーテル変性シロキサンと、炭素数 2～8 のジオールと、を含む、

防曇膜付きガラス物品。

10

【請求項 4】

前記ジオールは、エチレングリコール、ジエチレングリコール、プロピレングリコール、ジプロピレングリコール、ブタンジオール、ペンタンジオール、及びヘキサジオールからなる群より選択される少なくとも 1 つを含む、請求項 1～3 のいずれか 1 項に記載の防曇膜付きガラス物品。

【請求項 5】

前記ジオールは、ブタンジオール、プロピレングリコール、及びジプロピレングリコールからなる群より選択される少なくとも 1 つを含む、請求項 4 に記載の防曇膜付きガラス物品。

【請求項 6】

前記吸水性ポリマーは、ポリビニルアセタール樹脂を含む、請求項 1～3 のいずれか 1 項に記載の防曇膜付きガラス物品。

20

【請求項 7】

前記ガラス基材は、フロートガラスであり、前記防曇膜は、前記フロートガラスのボトム面に形成されている、請求項 1～3 のいずれか 1 項に記載の防曇膜付きガラス物品。

【請求項 8】

シランカップリング剤と、吸水性ポリマーと、ポリエーテル変性シロキサンと、炭素数 2～8 のジオールと、を含む、

防曇膜形成用塗布液。

30

40

50